

九州の活動だより

天神ビッグバン

野口 基雄(RKB)

コロナ禍で殆どのクラブ活動が中止となりました。そこで地域の話をお届けします。

九州一の繁華街福岡・天神は、この3年で大きく変貌を遂げようとしています。

その第1号の「天神ビジネスセンター」が昨秋に竣工し、テナントの入居も昨年末から続いています。このビルは、地上19階(高さ約90m)地下2階の高層オフィスビルで、テナントには通販のジヤパネットやNEC等が九州の拠点として入居するほか、米のグーグルの入居も噂に上っています。この春には飲食店街も姿を現すでしょう。

アジアの拠点都市を目指す福岡市が、老朽化したビルの刷新で企業誘致を図ろうと再開発促進事業「天神ビッグバン」を立ち上げたのが6年前。第1号プロジェクトのこのビルは、政府の国家戦略特区を活用して、福岡空港から直線距離で約4kmしか離れていない天神地区に航空法による高さ制限を緩和させることに成功し、今迄より20m高くな



つて100m迄ですが、天神から400m西隣の大名地区は約40m高くなつて115m迄となつています。ここに第2号案件の高さ111mの複合ビル(地上25階地下1階)を建設中で、本年末に完成し、米の最高級ホテル「ザ・リッツカールトン」が入居の予定です。

更に、天神近辺には他に多数のプロジェクトが進んでおり、オフィス等の新規供給が続く事になります。コロナ禍でのテナント探しが次の課題となりそうです。

左奥が、竣工した「天神ビジネスセンター」、中央が「福ビル」と「天神(コア)ビル」跡地で、3年後に19階建ての「新福岡ビル」が完成予定です。

若き薩摩の群像

38年を経て完成

小笠原 弦(KTS)

鹿児島中央駅前にある薩摩藩英国留学生のモニュメント「若き薩摩の群像」の前を通る度に、私は「良い仕事をさせていただきました、ありがとうございます」といつも手を合わせている。彼らの存在があったからこそ、KTS 15周年の記念特番「黎明の群像」が制作でき、ギャラクシー選奨の評価を頂くことができた。



JR 鹿児島中央駅前のモニュメント「若き薩摩の群像」高さ約12メートル

その薩摩藩英国留学生をモチーフにしたモニュメントは、鹿児島市の人口が50万に達したのを記念して、市が1982年に彫刻家中村晋也氏に依頼して建立したものだ。しかし、当時の市長は留学生ら使節団19人のうち土佐の高見弥一と長崎の堀孝之の2人を県外出身者という理由でモニュメントから外していた。この意想外の判断は、国禁を犯して藩の若者を英国に密かに派遣し、近代日本を築こうとした当時の薩摩藩主に比べ、実に愚行の極み

であった。私は、このことがやり残した宿題のように気になっていたため、退職後の2007年、モニュメントは未完成だとして、「完成させる会」を郷土史家や留学生の子孫らで組織した。そして、市や議会に「2人の像の追加」を働きかけた。市当局は、建立当時とは顔ぶれも変わり前向きな姿勢を見せたが、肝心の彫刻家が難色を示した。「モニュメントは既に完成した作品だから手を加えられない」ということだった。



追加された2人の像

それから12年、諦めかけていた頃、彫刻家に気持ちの変化が起こった。「作る」というのだ。休眠状態の市民運動は一人で再び動きだし、市当局と彫刻家サイドとの間に立ち、話を進めていった。

2019年9月、2人の像が追加設置され、「若き薩摩の群像」は38年の歳月を経て完成した。高見と堀の2人は、共に英国に渡った17人とやっと合流できた。閉鎖性のシンボルになってしまっていたモニュメントは、ようやく市民が誇れるものになった。